

議員特別研修実施報告書

報告議員名	青山 豊	報告日	令和元年7月31日
調査研究・研修等 名 称	① 公開授業「拓く力・地方の課題」受講 ② ③図書館を中心とした複合施設の視察		
実 施 日	令和元年6月24日 ～ 令和元年6月26日		
会 場	① 東京都文京区・拓殖大学 ② 東京都武蔵野市・武蔵野プレイス ③ 福島県須賀川市・テッテ		
調査研究・研修等の 概 要	① 拓殖大学大学院地方政治行政研究科の公開授業「拓く力・地方の課題」の受講。当日のテーマは「地域社会における企業の公的役割は何か」 ② ③開館以来、賑わいをみせる図書館を中心とした複合施設の見学・視察		
調査研究・研修等の 成果と感想	別紙参照してください。		

※1調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

※2調査研究・研修等に要した費用の支出を証する書類を添付してください。

特別研修報告

拓殖大学大学院地方政治行政研究科「拓く力・地方の課題」

「地域社会における企業の公的役割は何か」

講師：永久 寿夫 PHP 研究所専務取締役

日時：令和元年6月24日（月）午後6時～

場所：拓殖大学文京キャンパス

◆企業の地域貢献例

①「ニューステーション」の所沢ダイオキシン騒動で風評被害を受けた石坂産業

- ・騒動が止んでも地域住民による反対運動が続いた。
- ・社員全員による清掃活動→地域に溶け込む努力。
- ・煙突のない工場に大改築し、全天候型リサイクルプラントも建設。リサイクル率99%を達成。施設を小学生の社会科見学等に開放→安全性をアピール
- ・敷地内にフォレストパーク（クヌギの森）を設置、地域の子どもたちの遊び場に！さらに農園（石坂ファーム）をつくり化学肥料を使わない野菜を栽培。
- ・ホテルも生息し、夏まつりには700人の人出。トヨタや全日空等の大手企業も視察に訪れる。
- ・迷惑産業から地域貢献産業への脱皮。

②障害者の雇用を推進する川村義肢（大阪）

- ・600名の社員のうち、障害者が6%。（法定雇用は2%）
- ・職人自身がユーザーだからニーズを把握し、製品に反映できる。
- ・障害者を理解するための社内勉強会を実施、それにより現場でのコミュニケーション力UPや作業工程の見直しを図ることによって生産性の向上につながった。

◆企業は「社会の公器」

松下幸之助の言葉より

- ・根本は本業を通して社会に貢献する
- ・社会的使命を誠心誠意果たす
- ・地域社会から喜ばれる
- ・周囲の環境との調和

- ・人材の育成
- ・正しい経営理念
- ・赤字は罪悪（適正な利潤を生み、税金を納める）
- ・（松下電器は電化製品をつくる前に人をつくっている

☆日々、これを自覚しながらやっているか？

☆利益＝社会貢献となるような事業展開がこれからの企業には求められる

◆質疑応答より

- ・行政に対し、公共サービスの更なる充実を求める声が多い、しかし予算の限界がある。ここに民間が入っていく余地がある。
- ・しかし、各官庁が権力を握っている中央集権主義のままでは難しい。「地方のことは地方で決める」地方主権にならないと現実味は増さないだろう。
- ・この状況で行政ができることは「仕組みをつくる」こと。ただ企業や団体にお金を出して新製品開発やイベントをやるのは一過性で終わる可能性が高い。
- ・北上市は誘致企業の人手不足に対応するために、企業同士が人材を融通し合うネットワークをつくった。これが行政のやるべきこと。

●所感

- ・企業が自分たちの事業を通じて地域貢献をする意味と必要性
- ・企業が「本業に注力」することで地域貢献する意味と必要性
- ・企業に対し、行政が安易に補助金をつけない意味と必要性
- ・企業が地域貢献するために、行政が仕組みづくりをすることの意味と必要性

性
・究極は地域主権を確立し、地方の実情に合わせて民間活力を取り入れることの意味と必要性

様々な面から、「地域社会における企業の公的役割の意味と必要性」を考えさせられた。



特別研修報告

●武蔵野プレイス 見学

日時：令和元年6月25日（火）午前10時30分～

（写真は別紙参照）

◆立地

JR 武蔵境駅から徒歩30秒。目の前には公園がある。

◆施設

公益財団法人「武蔵野生涯学習振興事業団」が運営。

地下2階、地上4階建て。

図書館、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援の機能を持つ。

◆図書館

- ・地下2階（20歳以上立ち入り禁止）→青少年向け図書
 - ・地下1階→静かに読書・勉強ができるメインライブラリー
 - ・1階→カフェに新聞や雑誌を持ち込めるパークラウンジ
 - ・2階→児童書や生活関連図書を配置したコミュニケーションライブラリー
- フロアによって明確にジャンルやシーンが区分けされている。

◆生涯学習機能

- ・3階→窓口とラウンジ
- ・4階→講座、ワークショップなどのフォーラム会場

◆市民活動支援

- ・3階→ラウンジ、NPOの活動拠点

◆青少年支援

- ・地下2階（20歳以上立ち入り禁止）→スタジオ、勉強スペース等

●所感

・好立地ということもあり、続々と市民が訪れていた。フロアで昨日が明確に仕切られており、目的を持った市民にとっては使いやすい。図書館機能もまた、フロアでジャンル分けされていて周囲を気にすることなく過ごすことができる。まさに「市民の居場所」。

●須賀川市民交流センター「テッテ」

日時・令和元年6月26日（水） 午前10時～

施設を見学しながら、お話を伺った。

（写真は別紙参照）

◆経緯と目的

・もともとは市の福祉センターだった。東日本大震災で被害。復興事業の中で老朽化した図書館や公民館施設を望む声が多く、複合施設とすることとした。

◆施設概要

- ・JR 須賀川駅から徒歩20分
- ・5階建て。今年1月開館。
- ・中央図書館、公民館機能、子育て支援機能、コミュニティ FM、円谷英二ミュージアム

◆建設費

- ・約76億円。
- ・復興交付金、社会資本整備交付金で60%。
- ・自主財源は40%。合併特例債30%。基金10%。

◆維持費

- ・見込みで年間4億円（人件費含む）。

◆来場者数

- ・30万人を達成（月5万人ペース）

◆住民合意

- ・基本設計前に25回、設計に入ってから10回のワークショップを行った。

◆市内にある2つの図書館との関連性

・あくまでも市内中心部の図書館という意味での「中央図書館」。地域にある図書館はその地域の住民のための図書館という位置付けで、特に何かに特化しているわけではない。

◆運営体制

- ・この施設がまるごと「部」になっている。センター長（部長）がこの施設の

一切合切を決裁できる。だから、わざわざ子育てや公民館の所管部署にお伺いを立てる必要なし。

◆駐車場

- ・敷地内に72台（1時間300円 利用者2時間無料）
- ・近くの公園に160台（利用者無料）
- ・あとは市役所の駐車場（利用者無料）

●かなりデザインやレイアウトを練りに練ってつくられたという印象。そこかしこに工夫がみえる。

フロアごとに機能が分かれているが、そこに関連の図書を配架することで一体感を生み出している。ひとつの目的で訪れた人が「ついでに・・・」と他のフロアに立ち寄りたくなる施設である。

「この地方都市に無理やり“賑わい”をつくっても本末転倒。いかに市民が喜んで使ってもらえるか、を念頭につくった施設であって、それが結果的に“賑わい”になればいいです」というセンター長のコメントに唸った。